県理科作品展　特別賞長賞作品の紹介

県教育長賞

「うごく波」

酒々井小四年　桑名　玉緒

作品の解説

今回「うごくなみ」という作品で特別賞をいただいたわけですがこれは、夏休みの自由研究として製作されたものです。

しくみはごく簡単で、冷蔵庫のドアの磁性ゴムを使用してあります。磁石遊びの発展として作られてあり、その磁石をかくすため薄いフイルム板を用い、磁石に切手につけるため粒状の小さな鉄球を使用してあります。

海の絵をかいた上に波状に鉄球がつき、さらにそれを左右に動かすことによって波が動いているかのように見えるわけです。

このように廃品利用によって立派な作品ができるわけです。それにはいつもなにかを作ろうという意欲をもって努力した結果だと思います。

製作者の声

夏休みの理科工作で、何を作ろうかと考えていたら、おとうさんが「今までに学校の理科の時間にならったことで、動くものを作ったら」と言ったので、じしゃくを使って何かを作ろうと考えました。そして、うちにあるじしゃくをいろいろあつめたところ、れいぞうこのドアーのまわりのゴムの中にはいっていた、わりばしのような形のじしゃくがあったので、それを使うことにしました。

そのじしゃくは、やわらかくてまげたり切ったりできるので、紙の上にさてつをのせてちかづけたところ、波のような形ができて、ようこに動かすと波が動いているように見えました。

そこで、うみで子どもやさかながおよいでいるようにすれば、もっとおもしろいと思い、さかなの形などを作ってやってみたけど、さてつがうまくその形にならないので、じしゃくを使うところは波だけにして、あとは、えにかくことにしました。

じしゃくは、あまりつよくないので、じしゃくをかくすざいりょうには、うすいフイルムを使い、さてつを入れる箱もなるべくうすいものをさがして波がよくできるようにくふうしました。

波のざいりょうに、さてつをあようにし、カッターで穴をあけてあります。同じように下には草を作りました。そして太陽の後には赤の豆電球をつけ、草には二か所緑の豆電球をつけ、他に空として青い豆電球をつけました。また、箱を少し動かすと糸でつるしてあるので全体が動的です。最後に、真中につけた棒をまわすとへ棒の先に豆電球をつけて、まわりに紙をかぶせ、カッターで穴をあけてありますしまるで鹿の親子が走っているように見えます。

この作品は、暗い所で見ると、きれいな影絵になり、豆電球の色の効果も手伝って子どもらしい夢をあたえてくれます。

製作者の声

一、発明した動機

両親に動物園へつれていってもらったことから、ヒントを得て鹿の親子を箱につるしてみました。しかし、ただ動くだけでは変化が少ないことから、カッターで穴をあけたり、草、太陽、蝉を作ったり、あかりをつけてみたら割合におもしろくできました。

二、特別賞に入って

「太陽の下で遊ぶ鹿の親子」という題で、電池を使った影絵の作品が、町や郡から選ばれて、県の科学工夫作品展に出され、千葉組委員長賞という特別賞をいただきとうさんに、小さなてつのたまを見つけてきてもらい、やっとさらさらした波を作れました。

担任からみた桑名さん

羽生田　幸子

桑名さんは、いつも自分のペースで進む子で、友達のことをあまり気にせず、のんびりとしています。あとしまっや帰りじたくなどをするのにも時間がかかり、担任や友だちにさいそくされることがありますが、にこにこしていてどうじません。

あまり活発に行動するということもなく、口数も少ないほうですが、温和な性格なので友達から信頼され、今学期は学級委員長をつとめています。

よいところは、落ちついて、じっくりと考えることができるところでしょう。自分の思っていることは、はっきりと発表します。そして何をするのにもきちょうめんで、少々困難なことでも、くふうしてやりとげようと努力するがんばりやです。

今回、理科工作展でよい賞をいただけたのも、こういうふだんの生活態度が実をむすんだといえそうです。

千葉組委員長賞

「太陽の下で遊ぶ鹿の親子」

製作者の声

一、発明した動機

両親に動物園へつれていってもらったことから、ヒントを得て鹿の親子を箱につるしてみました。しかし、ただ動くだけでは変化が少ないことから、カッターで穴をあけたり、草、太陽、蝉を作ったり、あかりをつけてみたら割合におもしろくできました。

二、特別賞に入って

「太陽の下で遊ぶ鹿の親子」という題で、電池を使った影絵の作品が、町や郡から選ばれて、県の科学工夫作品展に出され、千葉組委員長賞という特別賞をいただきました。私は、「おめでとう」と知らせてくれました。私はうれしくて、うれしくてたまりませんでした。そうしたら、先生が私に「おめでとう、今度の金曜日に、千葉へ賞状をもらいに行くのですよ、よかったわね」と、とても喜んでくださいました。

当日、小高先生が千葉の本町小学校につれていって下さいました。私達、特別賞の人達は、高い台の上の椅子の上に座ることになりました。座ったとたんに、寒くもないのに足がぶるぶるとふるえてしまいました。

名前を呼ばれたので返事をして前へ出ました。賞品は「すごいなー」と思って見ていた大きなトロフィーでした。私は落ざないようにしっかりともらいました。学校に帰ると先生方が「おめでとう」と言ってむかえて下さいました。私はうれしくて、てれてしまいました。

担任からみた岡田さん

小高　ちみ江

岡田さんを一年、三年と受け持ちましたが、どの教科にもすぐれており、自分から進んで勉強をする子どもです。明るく素直で思いやりがあり、友人からはだいぶ好かれています。ただ積極性にやゝ欠けるため、人の上に立つことをこのみません。